

あいめーる

令和2年5月25日発行 〒861-0551
 発行 熊本県山鹿市津留2022
 社会福祉法人 愛隣園 TEL 0968-43-2771
 障害者支援施設 愛隣館 FAX 0968-43-2793
 発行責任者 三浦貴子 http://aileans.com
 編集 広報チーム E-mail
 キャリーピジョン ailinkan@magma.jp

SPRING

愛隣館通信



元鶴城中学校剣道部OG・OB
 手作りマスク寄贈

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためマスク不足が深刻になっていることを受け、元鶴城中学校(平成三十一年三月末閉校)剣道部OG・OBの皆さん(高校二年生〜二十三歳の十名ほど)がマスクを手作りされました。

四月二十八日(火)、田中さん(高校三年)、丸山さん・山口さん(高校二年)が代表で来館され、職員・利用者のために役立てて下さいと「愛のマスク」を愛隣館(六十二枚)、愛隣の家(六十九枚)寄贈いただきました。

外部講師の中嶋昭二先生が皆さんに声をかけ、それぞれ材料は自費購入で、ミシンや手縫いと、一つひとつ心をこめて作成されたそうです。

代表の三名は「鶴城中学校時代にボランティア活動や利用者との交流で愛隣館を訪問したこともあり、中嶋先生の呼びかけに賛同し今回のマスク作成に参加しました」、「材料は、先生の声掛けで早めに取り掛かったので手配することができました」、「作り方はインターネット等で、各々が型紙や作り方を入手して作成。最初は一枚作るのに一時間ほど掛かっていましたが、要領が分かり慣れてくると十五分ほどでできるようになりました」と、製作にまつわる話もして下さいました。

マスクには一枚々に製作者の一言メッセージが添えられてあり、心に響く贈り物となりました。職員・利用者一同心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



こつこつと力を合わせて



館長 三浦 貴子

一月、まだお正月気分の中で、中国武漢で発生した感染症の小さなニュースを見ました。動物由来と知り、ふと頭をよぎったのは、数年前に見たアメリカのドラマ「暴走地区ZOZO」。人間が原因を作り、動物たちが変異を続け、人間を憎み、襲う、予測のつかないストーリーでした。

一月下旬には、新型コロナウイルス感染症は、社会全体の大きな不安となりました。私も二月下旬まで、東京方面への出張が続いたので、マスクと手袋を付け、道中感染してはならないと必死で予防しました。

愛隣館では、業務継続計画（BCP）の充実をはかりながら、皆でこつこつと力を合わせてコロナ予防対策を続けています。まず、サージカルマスク不足に備え、二月から職員の手作りマスク制作を始め、乗り越えてきました。最近では、昨年廃校となった地元の中学有志の皆様から手作りマスクをプレゼント頂きました。そして、相談支援元利用者のご遺族には、2,000枚のサージカルマスクを寄贈頂くなど、ご厚意に感謝するばかりです。

アルコール手指消毒液の不足は、三月上旬に、山の地の塩社に相談し、製造を再開して頂きました。関係する福祉施設にも紹介したところ大変喜ばれ

ました。振り返れば、2011年東北への支援の時、2016年の熊本地震の時、いち早く地の塩社の田口社長は、手指消毒液を届けて下さいました。そして今回、本当にありがとうございます。改めて地域に支えられていることを、コロナ危機を迎えて実感します。

何としても生命を守るため、利用者の皆様には不要不急の外出制限、ご家族の皆様には面会制限など、三月から長期に渡りご不自由をおかけしています。世界を見ても、国内でも、施設の集団感染リスクが高いことを、私たちは片時も忘れず標準予防策を続けなければなりません。五月、変わらず神経を使う毎日ですが、施設の中には今、笑顔や笑い声がありますので、その日常を大切に、安全に暮らしたいと願っています。

新しい仲間



入居者

中村 昭三

今年の二月十四日より愛隣館に入居しております中村昭三です。熊本市の社会就労センター・ライオン工房にて三十五年間活動してきました。

愛隣館は以前ショートステイで何度かお世話になっており、なじみの職員さんも多く安心して生活できています。私は人と話すことが好きで、誰とも仲良くなれる性格なので皆さん気軽に話しかけて下さい！

「のんびり気軽に人生楽しく」がモットーです。どうぞよろしくお願いします。

『らくらく介護』をめざして

熊本県より、令和元（2019）年度熊本県障がい分野のロボット等導入モデル事業にて30万円が交付されました。交付金をもとに移乗サポートロボット（ハグ 約84万円）を初めて導入。ハグは、①自然な立ち上がりが可能。②移乗介助が一人でも可能。③支援者の腰痛予防。④準備・操作が簡単にできる。⑤安心安全を実現。という効果が期待されます。



利用者の後藤さんは、「今は良いものがありますね！（立ち上がりにより）久しぶりに景色が違って見えました。今後立位訓練を頑張ってみようかと思えます」と意欲的に。支援する女性スタッフも「リフトのように大掛かりではないので使いやすい」と好評でした。

社会福祉功労者知事表彰

令和元年度の熊本県社会福祉功労者として愛隣

館デイケア利用（月）・相談事業所で相談支援専門員として働いている坂田照美さんが、山鹿市の推薦により知事表彰を受賞されました。

この表彰は、社会福祉の向上に特に著しい功績のあった人に対し、その功績を称え表彰するものです。坂田さんは、平成二十四年から

山鹿市より委嘱を受けて社会福祉相談員として同じ当事者目線で活躍。また、趣味で始めたパステルアートを障がいのある方々に広げ、山鹿市の酒蔵で作品展示会を開催されるなど、障がいのある方の社会参加や生きがいのづくりに貢献されてきました。



今後ますますのご活躍を期待しています。

バレンタイン家族報告会

ケア課チーフ 徳丸 春美

令和最初のバレンタイン家族報告会が、二月十七日（月）に行われました。

初雪の中二十七家族、三十一名のご参加を頂きありがとうございました。

ご家族と会われた瞬間、利用者の方々の表情が笑みчивなるのを見ていと心暖まる思いでした。

食事会では、食生活課スタッフの手作りメニュー（酢豚、馬肉のたたきサラダ、エビフライ、あんかけ茶碗むし、白和え等）を囲んで楽しいひと時を過ごされました。

その後のお茶会や個人面談もご参加頂きありがとうございました。

来年度もご家族のご参加を楽しみにお待ちしております。



匠の技

三月九日（月）から九日間、一〇号室の改修を行いました。

かかる解体から仕上げまでの全ての作業を、ケア課の福山さんが手がけ、仕上がりはプロ顔負け。流石の一言です。

上げ畳の四人部屋でしたが、車イスからすぐ畳に上がるよう板張りの一部の畳を外しフラットにしました。洗面台も車イスで使いやすくなり、福山工務店と異名を持つ職員の「匠の技」に驚いています。

す。

職員と入居者には、「身体の負担も少なく使い勝手が良いです」と好評です。



労働安全衛生委員会

◆前年度活動報告

二月「新型コロナウイルスへの対応」講話

三月「転倒を未然に防ぐには」講話と運動指導

◆今年度の活動予定

四月「安全衛生委員会の役割」

五月「新型コロナウイルスの対策」

六月「食中毒予防」

七月「熱中症」

八月「職場環境改善」

九月「腰痛対策」

新年度委員編成が行われました。一人ひとりの健康で安心して働き続けられる職場づくりをめざしましょう。

『あいめーる』の企画・編集は利用者で構成された広報チーム、キャリアビジョンが担っています。

「愛隣館」新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は人と人の接触による飛沫感染率が高いといわれています。愛隣館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として三密（①換気の悪い密閉空間②多数が集まる密集空間③間近で会話や発声をする密接場所）を避け、ソーシャルディスタンスを保つなどの感染防止対策に努め、利用者・職員の安全・安心な生活を維持するために取り組んでいます。



密閉を作らない



来訪者の手指消毒・検温



理事長より緊急事態に備えた訓示



次亜塩素酸水による拭き掃除



地の塩社・職員手指消毒
(クリーンローションCS)



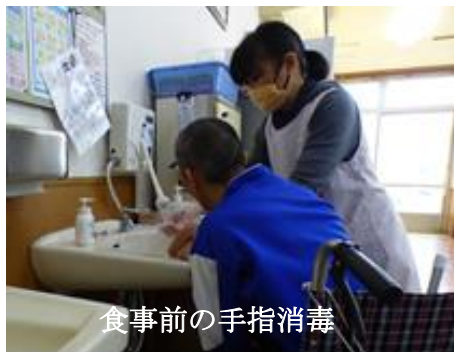
密接を作らない



感染時、防護対策



密集を作らない



食事前の手指消毒



ウイルスを持ち込まない

本年度の入居者自治会長は、前年度より引き続き猪股さん。副会長・会計は福原さんから石川さんに引き継ぎ、各役員が決定しました。
会長より「皆様こんにちは、猪股です。昨年は皆様からのご要望を待っていました。今年はこちらからお聞きしようと思っておりますので、その折には御協力の程よろしく願います。入居者、職員皆様で愛隣館を盛り上げていきましょう」とのご挨拶をいただきました。

新規自治会紹介

LEDは消費電力が少なく、寿命が長持ちすること、極端に赤外線・紫外線の放射量が少ないため、目にも優しく安心して利用することができます。

入居の方が多く利用している訓練室では、すべての照明がLED化され明るく生まれ変わりました。



LED照明・ライト交換

愛隣館では平成二十三年度より誘導灯、事務所、